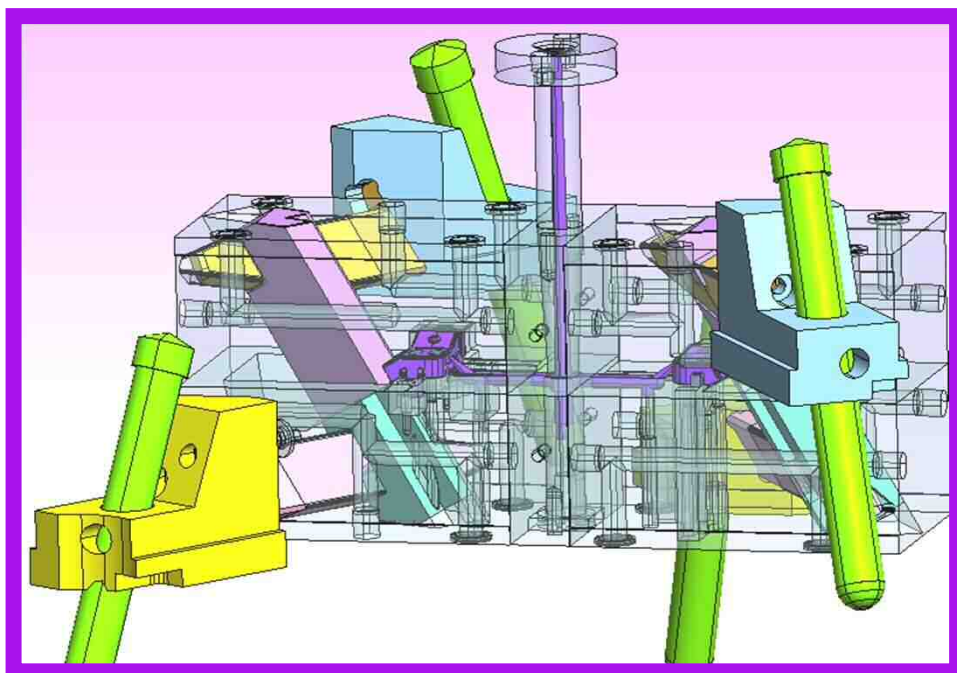


エコアクション21



エコアクション21
認証・登録番号 0002093

環境活動レポート



第36期版
2014年9月～2015年8月

2015年 11月 7日 発行



株式会社 **黒田精型**

目 次

- I 事業概要の紹介
- II 保有設備の紹介
- III 環境方針
- IV 環境負荷の実績と目標
- V 35期の環境活動の取組結果と評価
- VI 36期の環境活動計画
- VII 中期計画の目標
- VIII 環境関連法規への違反、起訴等の有無
- X 緊急事態への対応訓練
- IX 代表者による全体の評価と見直し

I 事業概要の紹介

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 黒田精型

代表取締役社長 黒田 国泰

(2) 所在地

本社工場（金型部）

〒937-0031 富山県魚津市道坂400番地

T E L 0765-32-8006

F A X 0765-32-8827

三田工場（成形部）

〒937-0811 富山県魚津市三田283-3番地

T E L 0765-24-6590

F A X 0765-24-3874

（全組織・全活動を認証登録範囲とします）



(3) 事業内容

本社工場

精密金型の設計・製作

三田工場

プラスチック製品の射出成形加工

(4) 事業規模

売上高

600百万円／2014年9月～2015年8月

従業員数

55名（パート、アルバイト含む）

工場延べ床面積

8,910㎡

(5) 環境関連の責任者とEメールアドレス

環境管理責任者

宮田 勉（三田工場）

miyata.tsutomu@kuroda-seikei.co.jp

副環境管理責任者

廣多 剛（本社工場）

hirota.tsuyoshi@kuroda-seikei.co.jp

Ⅱ 保有設備の紹介

(1) 主な金型部設備

大型平面研削盤
平面研削盤
立型マシニングセンタ
立型フライス盤
NCフライス盤
直立ボール盤
旋盤
Xion-II (3Dマシニングセンタ)
ワイヤー放電加工機
放電加工機
設計 (3D、CAD、CAM)
工具顕微鏡
画像測定機

など

(2) 主な成形部設備

射出成型機		
日精樹脂工業 (株)	PS40E	4台
	PNX40	2台
	NEX50	4台
	FS80	4台
	NEX110	1台
住友重機械 (株)	SG50	1台
(株) 川口鉄工	KM180	1台
(株) 名機製作所	M-50C	1台

など



射出成形ライン



日精樹脂工業 NEX110



日精樹脂工業 NEX50

Ⅲ 環境方針

環境方針

[基本理念]

株式会社黒田精型は人類にとって地球環境の保全が重要な課題であることを認識し、全従業員の行動を通して環境の保全に努め、より豊かな社会の発展に貢献する。

[行動指針]

- 1) 環境活動として次に上げる項目を重点的に取り組みます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物の排出量削減、適正処理、再資源化
 - ③ 水使用量の削減
 - ④ 化学物質の適正管理
 - ⑤ グリーン購入の推進
 - ⑥ 顧客の環境要求を満たす製品の製作
- 2) 環境関連の法規、規制を厳守します。

2013年9月1日(35期)

株式会社黒田精型

代表取締役社長 黒田国泰



IV 環境負荷の実績と目標

(1) 前々期・前期(34、35期)の環境負荷の実績

			34期 2012.9～2013.8	35期 2013.9～2014.8
①二酸化炭素 排出量	購入量	電力 (kWh)	1,072,663	1,228,203
		化石燃料 (L)※1	7,714	8,710
	二酸化炭素 排出量 (kg-CO2)	電力 ※2	711,175.5690	814,298.5890
		化石燃料 ※3	18,854.7106	21,264.4739
		合計	730,030.2796	835,563.0629
②廃棄物 排出量	一般ゴミ排出量 不燃+可燃 (kg)		782.00	877.00
	廃プラスチック 排出量	樹脂材料 購入量比 (%)	6.4	6.4
		排出量 (kg)	11,573	13,168
	混合物排出量 (kg)		3,360	2,070
	コピー用紙使用量 (枚)		122,329	139,300
③水道水使用量 (m ³)			83	90
④化学物質の適正管理			化学物質 適正管理 100%達成	化学物質 適正管理 100%達成
⑤グリーン購入の推進			環境に配慮した 製品の購入率 100%達成	環境に配慮した 製品の購入率 100%達成
⑥顧客環境要求を満たす製品の製作			顧客環境 要求事項 100%達成	顧客環境 要求事項 100%達成

※1 ガソリン・軽油・灯油購入量の合計

※2 北陸電力 平成24年度実排出係数 0.663(kg-CO2/kWh)を元に算出

※3 ガソリン・軽油・灯油それぞれの二酸化炭素排出量を算出し合計

(2) 36期(2014.9~2015.8)の実績

			目標値	36期		達成状況
				実績	前期比増減率 ※6	
①二酸化炭素 排出量※1	購入量	電力 (kWh)	1,222,062 (35期比 0.5%減)	1,145,863	▲6.7%	達成
		化石燃料 (L)※2	8622.90 (35期比 1%減)	8164.59	▲6.3%	達成
	二酸化炭素 排出量 (kg-CO2)	電力 ※3	810,227.0961	759,707.1690	▲6.7%	—
		化石燃料 ※4	21,051.8291	20,019.1133	▲5.9%	—
	合計	831,278.9252	779,726.2823	▲6.7%	—	
②廃棄物 排出量	一般ゴミ 不燃+可燃 (kg)		859.85 (35期比 2%減)	736	▲16.1%	達成
	廃プラスチック ※5	樹脂材料 今期購入量比 (%)	4.9	9.2	4.3%	未達成
	36期購入量 164,976 kg	排出量 (kg)	8,084	15,150	—	—
	混合物 (kg)		2049.3 (35期比 1%減)	1,350	▲34.1%	達成
	コピー用紙使用量(枚)		135,121 (35期比 3%減)	135,084	▲3.0%	達成
③水道水使用量(m ³)			89 (35期比 1%減)	81	▲10.0%	達成
④化学物質の適正管理			化学物質 適正管理 100%達成	化学物質 適正管理 100%達成	—	達成
⑤グリーン購入の推進 ※7			環境に配慮した 製品の購入率 100%達成	環境に配慮した 製品の購入率 100%達成	—	達成
⑥顧客環境要求を満たす 製品の製作			顧客環境 要求事項 100%達成	顧客環境 要求事項 100%達成	—	達成

※1 達成状況の判定は電気・化石燃料の購入量から判定

※2 ガソリン・軽油・灯油購入量の合計

※3 北陸電力 平成24年度実排出係数 0.663(kg-CO2/kWh)を元に算出

※4 ガソリン・軽油・灯油それぞれの二酸化炭素排出量を算出し合計

※5 廃プラスチック排出量は樹脂材料購入量に対する比率で判定

※6 増減率がマイナスの場合「▲***%」と表示

※7 対象は弊社で使用する事務用品

(3) 29期（2007年9月～2008年8月）との比較

- ・データ収集開始当初と、現在のデータとの比較
- ・比較するデータは①二酸化炭素排出量、②廃棄物排出量、③水道水使用量

			29期	36期	
				実績	29期比 増減率 ※7
①二酸化炭素 排出量	購入量	電力 (kWh)	1,397,732	1,145,863	▲18.0%
		化石燃料 (L)※1	10,084	8,165	▲19.0%
	二酸化炭素 排出量 (kg-CO2)	電力 ※2	926,696.3160	759,707.1690	▲18.0%
		化石燃料 ※3	24,958.3623	20,019.1133	▲19.8%
		合計	951,654.6783	779,726.2823	▲18.1%
②廃棄物 排出量	一般ゴミ 不燃+可燃 (kg)		1,670	736	▲55.9%
	廃プラスチック ※4 樹脂材料購入量比 (%) (31期購入量比) ※5		4.8	9.2	4.4%
	混合物 (kg) (33期排出量) ※6		3,640	1,350	▲62.9%
	コピー用紙使用量 (枚)		107,107	135,084	26.1%
③水道水使用量 (m ³)			88	81	▲8.0%

- ※1 ガソリン・軽油・灯油購入量の合計
- ※2 北陸電力 平成24年度実排出係数 0.663(kg-CO2/kWh)を元に算出
- ※3 ガソリン・軽油・灯油それぞれの二酸化炭素排出量を算出し合計
- ※4 廃プラスチック排出量は樹脂材料購入量に対する比率で判定
- ※5 購入量比による判定は31期より始まった為
- ※6 混合物の集計は33期より始まった為
- ※7 増減率がマイナスの場合「▲***%」と表示

V 36期の環境活動の取組結果と評価 (2014年9月～2015年8月)

①. 二酸化炭素(CO2)排出量削減に関する取組

電気使用量の削減

●取組内容

- ・成形部では機械設備に掛かる消費電力が非常に大きい為、消費電力量をリアルタイムに監視できる電力デマンドを成形現場に設置して電力の有効利用に心がけ抑制に努める。
- ・休止中の機器類は電源を落とし、休憩時間や未使用場所の照明は消灯する。
- ・空調温度管理で省エネ温度を奨励する。
(省エネ温度 冷房の設定温度 29℃/暖房の設定温度 23℃)

【実績と評価】

- ・電気購入量は目標値35期比0.5%減の「1,222,062kWh」に対して6.7%減の「1,145,863kWh」で目標達成
- ・不使用設備・照明の電源OFFなどの活動はかなり根付いている。ただ、電力の使用量は設備の稼働率に大きく左右されるため、今後は設備に対しどのような省電力対策が行えるかを調査し、実践してゆく必要がある。

化石燃料使用量の削減

●取組内容

- ・社有車を運転の際はエコドライブを実施する。
- ・フォークリフトの待機中はエンジンを止めて燃料消費とCO2削減に努める。

【実績と評価】

- ・化石燃料購入量は目標値35期比1%減の8622.9Lに対して、6.3%減の「8164.59L」で目標達成
- ・目標は達成できたが、34期と比較すると今期の購入量はまだ多い。
- ・新工場が稼働すれば、本社と三田工場の移動が不必要になるため、ガソリン・軽油の消費量削減が期待できる。
- ・新工場では暖房に灯油を使わず、空調にて室温管理を行う予定なので、灯油を購入することも無くなるため、こちらも購入量削減に期待が持てる。

②. 廃棄物排出量に関する取組

一般ゴミ排出量の削減(可燃+不燃)

●取組内容

- ・紙類の回収箱を設置する。
- ・可燃、不燃、ペットボトルなど分別を徹底する。
- ・通函や簡易包装のものを選ぶ
- ・ゴミとして排出されるものが、リサイクル可能か調査する。

【実績と評価】

- ・一般ゴミ排出量は目標値35期比2%減の859.85kgに対して16.1%減の736kgで目標達成
- ・本社の排出量が大幅に減ったことが目標達成に大きく貢献した。
- ・37期は新工場立ち上げに伴う引越で、不要物が大量に破棄される事が予想されるため、「前期比2%減」という目標は達成出来ない可能性が有る。

廃プラスチック（以下、廃プラと称す）排出量の削減

●取組内容

- ・特定したPP材に関して成形時に排出するランナー主要10色は、必ずリターンする。
- ・特定した樹脂材料に関しては、分別回収してリサイクル業者に売却する。
 - 1)成形時の捨てショット
 - 2)検査工程での外観不良品（当たり傷や気泡、ウエルド発生品など）
- ・産業廃棄物委託業者については、マニフェスト等の管理記録類で適正に処理されているかを確認する。

【実績と評果】

- ・廃プラ排出量は36期樹脂材料の購入量（164,976kg）に対して、**4.9%の8,084kgを目標**としたが**購入量比9.2%**の15,150kgで**目標未達成**。
- ・顧客からの移設型で、成形不良が大量に発生したために排出量が増えた。

混合物排出量の削減

●取組内容

- ・専用箱を用意して鉄、銅、アルミのそれぞれに分別する。

【実績と評果】

- ・排出量は**目標値2049.3kg**に対して**34.1%減の1,350kg**で**目標達成**
- ・37期は新工場への移設で大量の廃棄物が出る事が予想され、前期比1%減の目標は未達成となる可能性がある。

コピー用紙削減に関する取組

●取組内容

- ・コピー用紙削減では、両面コピー、集約コピーの徹底と提出物等は可能な限り電子データへの変換でペーパーレス化を推進する。

【実績と評価】

- ・コピー用紙使用量が**目標値35期比3%減の135,121枚**に対して、**35期比3%減の135,084枚**で**目標達成**
- ・目標は達成出来たが、34期実績をまだ上回っている。

③. 水道水使用量削減に関する取組

●取組内容

- ・水漏れのチェック（蛇口、トイレのタンク等）

【実績と評価】

- ・水道水使用量は目標値35期比 1%減の89m³に対して、**10%減の81m³で目標達成**
- ・新工場では水道を使わず全て地下水で賄うこととなる。今まで地下水は生産に不可欠で削減が難しいとして、集計のみを行ってきた。同様の理由により今後は水漏れチェック等従来の活動は行うが、目標は立てず使用量の把握を行ってゆく。

④. 化学物質の適正管理に関する取組

●取組内容

- ・ラッカーシンナーの購入量を把握し、入庫日を記録する。

【実績と評価】

- ・購入量の把握、入庫日を記録が行われていたことを確認した。

⑤. グリーン購入推進に関する取組

●取組内容

- ・弊社で使用する事務用品を購入する際は、環境に配慮された製品（エコマーク認定品等）を購入する。

【実績と評価】

- ・購入した事務用品は、全て環境に配慮された製品です。

⑥. 顧客環境要求を満たす製品の製作に関する取組

●取組内容

- ・顧客より指定された環境負荷物質の含有率を把握する。
- ・顧客より環境に関する調査依頼があった場合は、迅速に対応する。

【実績と評価】

- ・顧客より指定された環境負荷物質は、全て不使用又は閾値以下。
- ・環境に関する調査依頼は全て対応済み。

VI 37期の環境活動計画 (2015年9月～2016年8月)

1. 活動目標

		37期の目標値
①二酸化炭素 排出量削減	購入電力使用量 (kWh)	36期比0.5%減 1,222,062
	化石燃料使用量 (L) ※	36期比1%減 8,623
②廃棄物 排出量削減	一般ゴミ排出量 不燃+可燃 (kg)	36期比2%減 859
	廃プラスチック排出量	37期購入量比 4.9%
	混合物排出量 (kg)	36期比1%減 2,049
	コピー用紙使用量 (枚)	36期比3%減 135,121
③水道水使用量削減 (m ³)		地下水使用量把握 (水道水不使用となるため)
④化学物質の適正管理		化学物質適正管理 100%達成
⑤グリーン購入の推進		環境に配慮した 製品の購入率 100%達成
⑥顧客環境要求を満たす製品の製作		顧客環境要求事項 100%達成

2. 目標達成に向けての取組

①. 二酸化炭素(CO2)排出量削減への取組み

●電力使用量の削減の取組み

- ・休止中の機器類は主電源を切り、昼休み時間や未使用場所の照明に於いては常に消灯する。
- ・空調温度管理を省エネ温度に設定する。
【冷房の設定温度 29℃/暖房の設定温度 23℃】
- ・省電力設備 (LED照明等) 採用など、電力使用量を削減する方法を検討する。

●化石燃料使用量の削減の取組み

- ・荷物運搬時の過積載運行はしない。
- ・エコドライブ講習会を実施し、社用車の燃費向上を行う。
- ・社用車の利用状況を把握するため、「使用記録(仮)」を作成し記録を行う。

②. 廃棄物排出量の削減に関する取組み

弊社では廃棄物に対し **3R** (**リデュース**：廃棄物を出さない、**リユース**：再使用する、**リサイクル**：再資源化する)の考えを基本に、全体的な廃棄物削減に取り組んでいます。

- 一般ゴミ排出量の削減の取組み
 - ・紙類は分別の徹底を継続して行う。また古紙回収BOXを増設し回収率を上げる。
 - ・不燃ゴミは魚津市発行の『ごみ・資源物の分別ガイド』を参考に分別を行い、回収可能なものがあれば回収方法を検討し、排出量削減を目指す。
 - ・可燃・不燃ゴミに対し、定期的に巡回調査を行いゴミの内訳を把握し、排出量削減に繋げる。

- 廃プラ排出量の削減の取組み

※今期も成形プロセスで発生する廃プラの削減に関しては最重要課題と位置付けています。

- ・成形中に排出するランナーPP材、主要10色は、色分別して必ずリターンする。
- ・検査工程で発見する特定した外観不良品に関しても、分別回収して可能な限り再資源化に努める。
- ・金型部と連携しながら品質向上を図り、源流からの発生原因を改善する。
- ・金型部から排出された廃プラスチックの回収方法を検討する。

- 混合物排出量の削減の取組み

- ・アルミダイキャスト製品の組立不良等が混合物として廃棄されているので、アルミとして売却出来ないか調査する。（可能であれば売却する。）

- コピー用紙使用量の削減に関する取組み

- ・書類の電子化、データベース化、両面コピーや集約コピー化を徹底し、コピー用紙使用量の削減に努める。
- ・印刷プレビューを活用し、ミスコピー削減に努める。
- ・両面印刷、Nアップ（複数ページ印刷）のやり方や、ミスコピーの例等を印刷機周辺に掲示し、コピー用紙使用量削減の方法を周知する。

③. 水排出量の削減に関する取組み

- ・37期からは地下水の使用量把握のみを行うが、今後も同様に水漏れ点検等、節水活動を行っていく。

④. 化学物質の適正管理に関する取組

- ・化学物質は適正な管理を今後も継続して行う。

⑤. グリーン購入推進に関する取組

- ・社内で使用する事務用品を購入する際は、環境に配慮されている製品（エコマーク認定品等）を積極的に選択し、グリーン購入を推進します。

⑥. 顧客環境要求を満たす製品の製作に関する取組

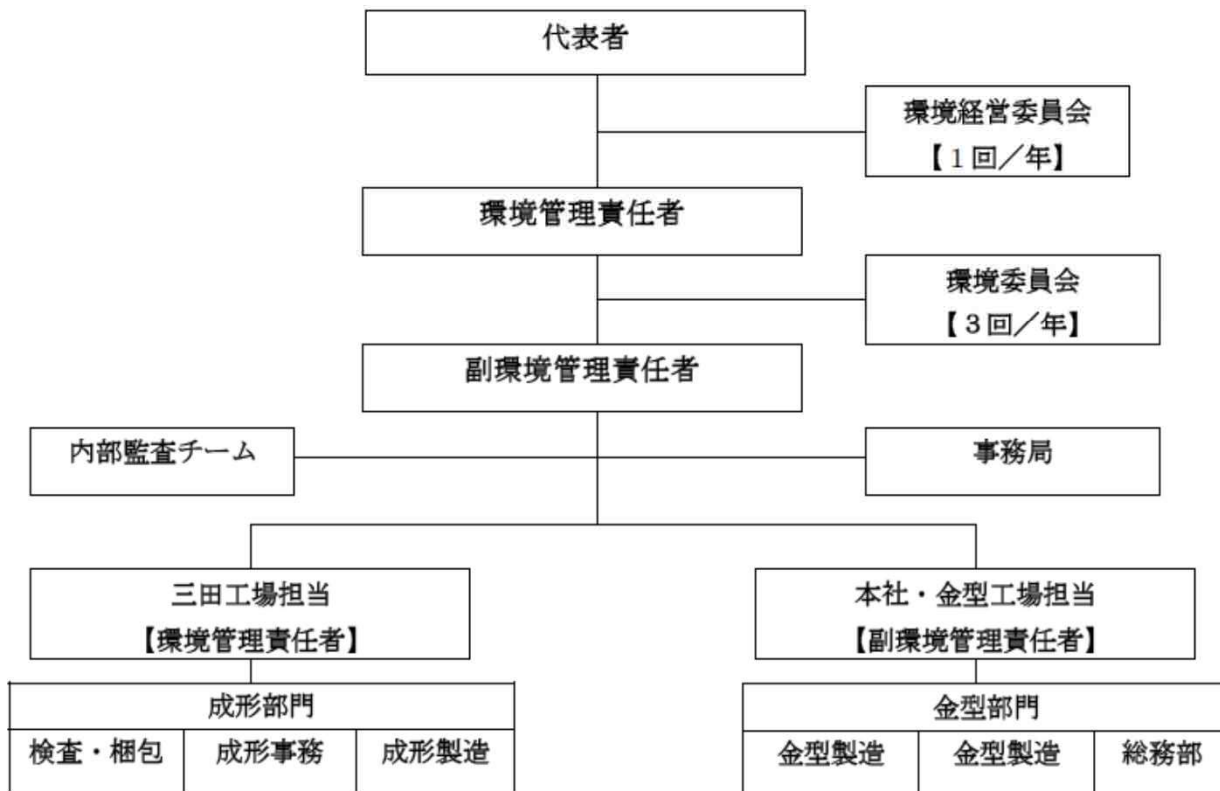
- ・顧客より指定された環境負荷物質の含有率を把握する。
- ・顧客より環境に関する調査依頼があった場合は、迅速に対応する。（対応窓口は事務局）

3. その他、環境活動に関する取組み

- ・環境目標を達成するために何を行えばよいかを冊子にまとめ配布する。また、その冊子を基に工程の長に対し教育を行う。
- ・環境目標に対する目標値と実績を大きく分かりやすく掲示し、自分達の行っている活動の結果を知ってもらい、環境活動に対する意識を高める。
- ・弊社グリーン調達ガイドラインに従い、樹脂材料や部材に関してはグリーン調達100%を推進する。
- ・環境マネジメントシステムの運用と維持の為、基本【3回/年】又は必要に応じて環境委員会会議を開催する。

エコアクション21の活動推進体制

環境マネジメントシステム組織図



VII 中期計画の目標

項目 (単位)		36期実績 (2014. 9～ 2015. 8)	37期目標 (2015. 9～ 2016. 8)	38期目標 (2016. 9～ 2017. 8)	39期目標 (2017. 9～ 2018. 8)
二酸化炭素 排出量削減	電気使用量 (kwh)	1, 145, 863	前年比 0.5%減 1, 140, 134	前年比 0.5%減 1, 134, 433	前年比 0.5%減 1, 128, 761
	化石燃料 使用量 (L) ※	8, 164. 59	前年比 1%減 8, 082. 94	前年比 1%減 8, 002. 11	前年比 1%減 7, 922. 09
廃棄物 排出量削減	ゴミ排出量 不燃+可燃 (kg)	736	前年比 2%減 721	前年比 2%減 707	前年比 2%減 693
	廃プラ 排出量	35期 購入量比 6.4%	36期 購入量比 4.9%	37期 購入量比 4.9%	38期 購入量比 4.9%
	混合物 排出量 (kg)	1, 350	前年比 1%減 1, 337	前年比 1%減 1, 323	前年比 1%減 1, 310
	コピー用紙 使用量 (枚)	135, 084	前年比 3%減 131, 031	前年比 3%減 127, 101	前年比 3%減 123, 288
水道水使用量 (m ³) ※		81	/	/	/
化学物質の 適正管理		化学物質 適正管理 100%達成	化学物質 適正管理 100%達成	化学物質 適正管理 100%達成	化学物質 適正管理 100%達成
グリーン購入		環境に配慮した 製品の購入率 100%達成	環境に配慮した 製品の購入率 100%達成	環境に配慮した 製品の購入率 100%達成	環境に配慮した 製品の購入率 100%達成
顧客環境要求を 満たす製品の製作		顧客環境 要求事項 100%達成	顧客環境 要求事項 100%達成	顧客環境 要求事項 100%達成	顧客環境 要求事項 100%達成

※37期の新工場移転後は水道を使用しなくなる為、目標を設定しない

VIII 環境関連法規への 違反、起訴等の有無

- 当事業所に適用される関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反は有りません。
- 関係関連等からの指摘及び利害関係者からの訴訟、苦情も過去9年間有りません。

IX 代表者による全体の評価と見直し

環境活動結果

①環境負荷削減目標の達成状況

購入電力に関しては設備稼働率が下がったことにより、使用量が減少。
目標達成となった。

37期に行う活動として、不使用設備の電源OFF等従来の活動に加え、設備の改造による電力削減も視野に入れ取り組んでいく。
また、動力と電灯で別々に購入量を調査し、それぞれ使用量削減の方法を検討してゆく。

化石燃料に関しても目標達成となった。

ガソリン・軽油が効率よく使用されているか、燃費調査を行う。
また長距離の移動などで社用車を使用することが適切かを、使用する前に検討するよう指導を行う。

②事業活動における削減への取組み

黒田精型にとって『廃プラ排出量の削減は、最重要課題』に位置付けている。
35期に続き36期も目標に対して未達成に終わった。

37期は中断していた廃プラの排出量減少を目的とした成形機の改造を再開させる。
また成形不良率を削減することで、廃棄される樹脂材料を減少させる。
各部署が一丸となって、計画を進めていく。

③水道使用量について

36期は前期より使用量を削減させることが出来た。

37期は成形工場が移転するが、移転先の新工場では水道を使用せず地下水で全てを賄う。

今まで地下水は設備可動の為に使用しており、削減が難しいため、使用量の把握のみを行ってきた。

新工場移転後は上記と同様の理由により目標を立てず、従来の活動（水漏れパトロール等）の継続と地下水使用量の把握を行っていく。

④廃棄物削減と分別による再資源化

一般ごみ（可燃・不燃）、混合物は前期と比較して減少する結果となった。

混合物の廃棄についてだが、備品以外の廃棄が数回行われていた。

今後発見した場合は、写真を撮り掲示するなど厳しくあたってゆく。

社員教育

上記環境活動は社員一人一人が意識して行うことが重要と考えている。

如何に環境活動に関わりを持つかということが、意識を高める為に

重要な気がします。

そのために以下の内容を実施する。

①委員会メンバーは、期限を決めて交代制にする。

環境活動に深く関わることが出来る。変更時期は今後検討する。

②昨年に引き続き、掲示を行う

金額をベースに記入する事で意識を高める。

③廃棄物に捨て方は厳しく管理

家庭ゴミの持ち込み、分別間違い、洗浄不足など。

廃棄に関するルールを守るように、強く指導していく。

変更の必要性		
項目	必要性の有無	変更が必要な箇所
環境方針	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
環境目標	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
環境活動計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	水に関する目標達成計画 (水道水不使用となるため)
環境経営システム	<input checked="" type="radio"/> 有・無	環境委員メンバー交代制の導入 (導入時期は今後検討する)

X 緊急事態への対応訓練

当社では緊急事態での危機管理における対応を目的としてマニュアルを制定し、社員の具体的行動を示すとともに緊急時の全社的な対応を定め、その為の訓練を定期的に行っています。

例年は期末周辺に避難訓練を実施しておりますが、今期は新工場への移転を控えており、工事で使用できない場所があるなどして通常の訓練が出来ないため、移転完了後に避難訓練（または講習会）を実施する予定です。



URL:<http://www.kuroda-seikei.co.jp/>